

知・徳・体の 原点に戻ろう

自然科学研究機構
分子科学研究所長

中村 宏樹 氏



教育随想

最近の日本の社会は些か病んでい
るのではないだろうか。余りにも奇
妙な事件が多すぎる。子が親を殺し、
親が子を殺すといった信じられない
事件まで頻発している。人間の品格
どころではなく、人間性そのものの
劣化が起こっている。

教育再生会議の議論が盛んである
が、恐らく小中教育だけの問題では
ないであろう。国及び社会全体の問
題として、幅広く専門家が集結し真
剣に対策を講じるべきである。明ら
かに長年に亘る情操教育の欠如が遠
因である。バブル経済の影響か、そ
れとも、情操と倫理の側面を忘れた
欲望意識発露のアメリカ化か、大人
社会のモラルの低下も起こっており、
それが子供世代に大きな影響を及ぼ
していることも間違いない。親の世
代からおかしくなっているのである。
この連鎖を止めない限り、残念なが



らこの深刻な事態の解決にはならな
いであろう。子供が親をたしなめる
ようにする教育さえ必要なのではな
いか。

それと共に、日本人の良さを再認
し自信を取り戻す必要がある。勤
勉さ、誠の心、特有な感性、自然へ
の感受性、美意識、もののあわれ、
他を思いやる心、親切心、謙とした
心等々、日本人の情緒面での素晴ら
しさを思い起こし、日本を正す必要
がある。

職業柄、最近の若者の学力低下を
憂う立場から、教育においては、子
供たちの集中力、思考力、感受性、

直覚力を養ってもらいたいと思っ
ている。また、人間の知的活動の最高
峰の一つと考える「数学」と「哲学」
の教育をしっかりとやってもらいた
い。常日頃思っている。実はこの主
張を本拙文に認めるつもりであった
が、いざ書き出すと、現状はそれど
ころではないのではないかと思えて
きた。

知・徳・体の原点に戻り、世の中
のこの憂うべき事態を改善するため
の教育界の草の根からの活動に心底
より期待して筆を置く。

(なかむら ひろき)



平成19年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	自然科学研究機構 分子科学研究所長 中村 宏樹氏
この人に聞く	豊かな食と農の伝道者 岡田 益夫氏
羅針盤	美川中学校長 石原比朗志
ふれあい	細川小 小林 裕子 六ツ美中 神谷 幸志
特集	今、求められるキャリア教育
お知らせ	フォト・ヒストリー 伊勢・鳥羽への修学旅行 (昭和27年)
この本を	

ふるさとシリーズ

この人に関く



人生を変えた出会い

豊かな食と農の伝道者

岡田 益夫 氏

胸立むねだてといえは、思い浮かぶのはどうであろう。岡田さんは、その胸立むねだてでぶどう園を経営されている。

「胸立むねだてのような山あいは、日当たりも悪く、水も冷たい。当然、米は育ちません。そこで、雨が少なくても育つぶどうが定着してきたのです。」
昭和二十年の中ごろ、岡田さんの先代を始めとした二、三人の人がぶどうの苗を植えたのが、始まりだと
言う。

「わたしの家はぶどう農家ですが、わたし自身は農業の方へ進む気はあまりありませんでした。しかし、高校時代、山梨のぶどう農家に実習に

行って、考え方が変わりました。そのときに指導してくださった人が、わたしに本当に親身になって教えてくれました。農作物を懸命に育てる姿、そして、そのすばらしさを人に伝えようとする情熱。あの人との出会いがわたしの人生を変えました。」
その後、ぶどう農家を継ぎ、胸立ぶどう狩り組合の組合長を長年にわたって務められた。また、ぶどうの品種改良に意欲的に取り組み、今年度の品評会では市議会議長賞を受賞されている。

愛知県農林水産事務所農業改良普及課では、県内の農業者の中から食や農に関する技術・知識を有し、広く県民に伝えることのできる方を「豊かな食と農の伝道者」として登録してきた。岡田さんも、岡崎市内では二人しかいない伝道者の一人として、活躍されている。



児童生徒のぶどう園の見学や農業体験を受け入れたり、依頼があれば、学校を訪問し、ぶどうの育て方やジャムづくりなど、多くの技術や知識を丁寧に伝えたりしている。

「子供たちには、栄養とか、どのようにしてできたかなど、食べるものにもっと気をつけてほしいです。きちつと食事をするのは大事なことです。足腰のしつかりした子供たちにはしないと、日本は不安です。我々大人がきちつと教えていかなければいけませんね。」

人生を変える出会いを高校時代に経験したからこそ、岡崎の子供たちにも誠意を持って接したいと話される。

「ぶどうがなっている様子を見せるだけでも価値があります。多くの子供はスニーカーマーケットでしか見たことがないからです。また、お父さんが会社に行くと、働く姿を見たことのない家庭がほとんどです。家族と共に農業体験をすることは、とても大事です。普段できない体験をして、何かを感じ取ってくれば、こんなふうにうれしいことはありません。」

道を伝える「伝道者」としての言葉を、我々もしっかりと胸に刻んでおきたい。

氏名 おかだ ますお

生年月日 昭和二十六年七月一日

住所 駒立町カワテ五十六、

五十七合併地

教師の目・耳・言葉

美田中学校長 石原比朗志

教育の至言に、「教育は、教師その人にあり」という言葉がある。

ほんとうにそうだと思う。子供に直接対する教師がどうあったらよいか。このことに迫るのに、私は、教師の資質として「目・耳・言葉」の三つの点を思い、次のように学校経営案のはじめにも載せている。

・子供の背中を押し、見守り続ける目を持つ教師

やつと鉄棒の逆上がりができるようになった子供が言う。

「先生、見てて。」

「見ててやるよ。逆上がり、やってごらん。」

子供は、得意げに逆上がりに挑戦する。見ていることが励ましとなり、子供は幸せな気持ちになれる。子供は、いつも先生や親に見ていてもらいたいのだ。「子供が育つ魔法の言葉」(ドロシー・ロー・ノルト)の



大きな一歩

細川小 小林 裕子

毎年十月に行われる行事の一つに「細川チャレランワールド」がある。くつとばし、空き缶積み、豆つまみなど、十以上にもわたる種目で歴代一位の座をかけて、全校の子供たちが、教師が、保護者が奮闘する。昨年A子は、その実行委員を土台にして大きな一歩を踏み出した。

A子は、友達の後ろを付いて歩く子だった。自分に自信がないのだ。もっと人前に立って話せるのに……。いつももどかしく感じていた。そこで、断られることを覚悟で、「チャレランの実行委員をやってみない」と声をかけてみた。答えは、うれしいことに「うん、挑戦しようかな」であった。

A子は、会の企画や宣伝、道具の準備など、「全校のために」という責任感で熱心に取り組んだ。本番では、全



体会会の司会、各種目への児童や保護

者の誘導・案内を先頭に立って行った。この行事を通して、「みんな楽しんでくれた」「やってよかった」という達成感がA子を大きく成長させた。「先生、わたし後期図書委員長に

なれたよ。」引っ込み思案であったA子の、照れながらも自信にあふれた笑顔が今でも忘れられない。



コントでオンステージ

六ツ美中 神谷 孝志

毎年、文化祭では有志が集まっての「六中オンステージ」がある。

四月、担任した二年生には、元氣あふれる男子メンバーが集まった。その中におとなしく、まじめなA男がいた。そんなA男に朝の会や帰りの会などで、簡単な質問をして話題をふるように努めた。

合唱コンクールの練習が盛り上がり

てきた十月、教室で一つの提案をし

てみた。「先生とコントでオンステージに出てみないか」と。男子の半数以上が乗ってきた。その中にA男もいた。初めは恥ずかしそうに練習に参加していたA男であったが、時がたつにつれ、「早くやろうよ」と友達に呼びかけたり、「こんなのどうですか」と面白くなりそうなコントを提案したりするようにもなっていた。こうして、学校の平和を守るために現れたヒーローのハリセンマンのコントが完成した。

当日、少々の笑いをとったものの会場の反応は今一歩であり、準備不足であったと反省した。わたしの「ごめん」の言葉に、「みんなでやれたことが楽しかったです。先生、ありがとうございます」と、A男からのうれしい反応。A男の殻がひとつ破れたようだ。



なかで、私の思いと重なるのは、「見つめてあげれば、子供はがんばり屋になる」という言葉だ。

・子供の悲しみ・苦しみ聞こえる耳を持つ教師

魂の教育者と呼ばれる故東井義雄先生は、一年生の学級担任を決めるときに一番苦心されたという。幼い子供の声なき声を聞くことができる「学校中で一番大きな耳の先生、仏様のような耳を持っている先生」は、だれかと考えたという。

授業で子供のつぶやきを拾う、教育相談で言葉に出ない悩みや苦しみを察してやるなど、東井先生の言われる大きな耳を持ちたいと思う。

・子供に応じた目標を示し、成長を伝える言葉を持つ教師

「草木は光のシャワーを浴びて育つ。人間は言葉のシャワーを浴びて育つ」こんな言葉を知った。

優れた教師は、すばらしい言葉かけをしている。授業の発言に対して、短くとも的確な言葉を発している。欠点の指摘ではなく、成長の方向を示す言葉かけである。

「目・耳・言葉」がおのずから備わっているわけではない。教師としての修行のなかで身につけるものだと思う。

今、求められるキャリア教育



▲和菓子屋での袋詰め作業（六ツ美北中）

雇用の多様化によるフリーターの増加、少子化、高学歴化が原因と思われるニートの出現。こういった背景から、文部科学省が「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる」目的でキャリア教育を小中学校に提唱したのは、平成十六年のことである。岡崎市では、それ以前からすべての中学校で職場体験学習を行っており、その教育効果はキャリア教育の一環として注目できる。体験先は、工務店、農家、福祉施設、マスコミと多岐に渡り、子供たちは自分の希望に近い職場で体験学習を行っている。食品店に行った生徒は「掃除が一番大変でした。汚いとお客さんが来てくれないと思いい、学校よりもきれいになるまでとことんやりました」と、いつもと違う自分を見つけた。受け入れ先の事業所の方からは、「中学生がこういう体験をするのには賛成です。この体験が将来を考える上で、少しでも参考になればいいと思います」と、好意的な意見が多い。しかし「担当者の確保や仕事の用意、安全面の配慮など、気を遣うことも確かです」との意見もある。

小学校においても、専門的な職業に就いている方を招いて、仕事に就いたきっかけややりがいを聞く。校外見学に行つて、そこでお手伝いする。学校の中にまちを作つて校内通貨を流通させ、社会のしくみを体験するなど、様々な取組が始まりつつある。

こうした体験を通して、子供たちは校内で学ぶだけでは決して得ることのできない勤労観・職業観を学んでいる。地域の方々の協力を仰ぎながら、子供一人一人に自分の生き方を見つめさせていきたい。



▲消防署での放水訓練（河合中）

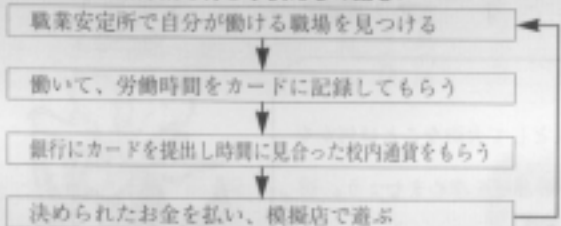


▲ニジマス養殖場での聞き取り活動（夏山小）

小学校で

PTAや地域の方々の協力を仰ぎ、様々な店や機関を出し、子供たちが運営する小さな社会「城南CITY」を創造する。校内に作られたミニ社会の中で、児童は大人の社会生活を疑似体験する。

〈職業意識・勤労観を育む子供たちの動き〉



〈城南CITY市民憲章〉

- ・みんなでいっしょに町づくりをしましょう。
- ・協力し合う楽しさや、難しさをまなびましょう。
- ・働く楽しさをまなびましょう。
- ・お金の大切さをまなびましょう。
- ・学年をこえてふれあいましょ。

〈城南CITY実施日時〉

平成18年10月28日(土)29日(日)の2日間

(平成18年度 城南小の実践から)

中学校で

「夢プロジェクト2006～人に学び、人と学ぶ～」をテーマとし、社会でひたむきに努力している人にスポットを当て、話を伺ったり実際の職場で働く体験をしたりして、「働くことの意味」について学んでいく活動に取り組む。

〈活動計画〉

月	学習内容	学習活動
4	職業への関心づけ	「働く人」のビデオ視聴
5		林業従事者の講話(白馬・小谷)
6	第1次産業との出会い	森林組合による林業体験実習 農家の方との交流
7	職業適正調べ	職業レディネステスト
9	体験学習の計画	職業調べ・体験職業の決定
10		追究職業紹介カードの作成
11		事前訪問計画書の作成
12		社会人としてのマナー講話 事業所の事前訪問 体験活動計画の見直し
1	職場体験学習	3日間の職場体験学習
2	体験学習のまとめ	体験学習の発表・特別講師の講話
3	活動の自己評価	追究レポート作成 来年度の学びを計画

(平成18年度 城南中2年生の実践から)

体験から学んだこと

城南CITYで学んだこと

新聞記者体験を終えて

わたしは城南ハローワークで働きました。準備が整ったら、仕事の練習。わたしは情報収集の係で、券が少なくなった店へ券を届けに行きます。これではぼちちと思っていましが、現実はいきまきませんでした。予想以上にたくさんの方が来て、すぐに券がなくなるので、校内を何回も回って、とても大変でした。でも、この城南CITYを聞いたことで学べたことがたくさんあります。その中でも、お父さんがいつもどんなふうに仕事をしているのかということがわかったことが大きいです。城南CITYでは、働く仕事内容の大きさや、みんなが嫌がるだろうという仕事によって、給料として支払われるジョナール(校内通貨)が変わります。それと同じで、実際の社会でも、自分の役割や仕事内容によって給料が違うことがわかりました。わたしは今まで、給料はみんな平等にもらえていると思っていました。でも、本当はみんな少しずつ違うんだなと思いました。だから、大切にお金を使うようにしたいと思えるようになりました。(城南小 六年生)



(城南小 六年生)

今回行った職場体験学習では、わたしの目指す新聞記者が実際に取材をする姿を見て学ぶことができました。一般の人に意見や感想を聞き、どの角度から写真を撮れば読者に伝わるのかなど、いろいろなことに気を遣って取材をする姿。どういった記事にすれば取材内容が伝わりやすいのかを、時間をかけて考えている姿。わたしが想像していたよりも、取材される人や新聞を読む人を大切にしていることがわかり、心に残る三日間でした。社会に慣れていないわたしが温かい雰囲気であててくれたことに、心から感謝をしています。

これから記者を目指そうと、今回の体験を大切にして、取材される人や読む人を一番に考えられる記者になりたいです。(城南中 二年生)



(城南中 二年生)

お あ ら せ



この提言が、提言書やリーフレットなどをもとに、学校はもとより家庭や地域にも広がり、それぞれの立場から目標の達成に向けたアクションが生まれてくることが期待される。

● 教育最新情報

○ 岡崎市「いのちの教育」アクションプラン推進事業

本事業は「自分を大切にすると共に、他の人を大切にすることを心もち、さまざまな場面で態度や行動に表すことのできる子供たちの育成」を目標とする。

六月六日に第一回岡崎市「いのちの教育」アクションプラン推進協議会が開かれた。協議会は、家庭、地域、園・学校、行政、子供の五つの部会から成り、六十九名の協議会委員と五十七名の代表中学生が所属する。協議会による三か月間の部会の検討を経て、九月に五つの部会からの提言が発表された。この提言を受け具体的な活動が開始される。

いのちの教育推進に向けた提言

① 家庭部会

提言1 「我が家のルール」・「我が家の憲法」をつくり、人として大切なことは何かを体験を通して教えていきましょう。

提言2 家族がふれあえる食事や会話の時間を大切に、互いの理解を深めましょう。

② 地域部会

提言1 大人からあいさつ・声かけをして、子供たちの名前を覚え、地域で子供を育てる「はじめの一步」を踏み出しましょう。

提言2 地域の行事・学校の行事に積極的に参加することで、地域の子供といっしょに汗を流し、心でふれあいましょう。

③ 園・学校部会

提言1 いのちの温もりや生きることの喜びが実感でき、互いのいのちを尊重しあう保育・教育を推進します。

提言2 幼保・小・中が協働し、それぞれの成長段階に応じた適切な支援をすることにより、いのちを尊ぶ心と態度を育みます。

④ 行政部会

提言1 各課の連携を深めると共に、関係機関とも協働して、より広い視野に立った温かい支援に努めます。

提言2 子供たちの実態把握に努め、家庭、地域、園・学校の絆がもっと深まるような事業の改善・改革を目指します。

⑤ 子供部会

提言1 互いのよさを見つけ、認め、励まし合う友達関係や学級づくりに努め、いじめを撲滅します。

提言2 学習や部活動を通して前向きな生き方を身につけ、私自身に与えられた尊いいのちを大切にします。

● 少年自然の家だより

○ すぶちワイルドキャンプ

自然の家主催事業の中で最も人気がある「すぶちワイルドキャンプ」を八月八日から一泊二日で実施した。小学四年生から中学一年生までの児童生徒七十名が参加して盛大に行われた。

カヌー・水遊び、ドラム缶風呂、キャンプファイヤー、野外炊飯、落ち葉スキーなど初めて体験する子供も多く見られ、楽しい時間を過ごした。

このキャンプは毎年テーマを決め、自然の中での体験活動を楽しむようにしている。

本年度は、「竹」をテーマとし、子供一人一人が竹の箸づくりや竹筒を使ったご飯づ



▲ 流しそうめん(ワイルドキャンプ)

くり挑戦した。また、竹を使った流しそうめんをしたり、最後に竹筒を作ったりして、この日の記念のお土産とした。退村式の後、子供たちは、再会を約束し合って、名残惜しそうに山を去って行った。

○ 野外活動指導者講習会

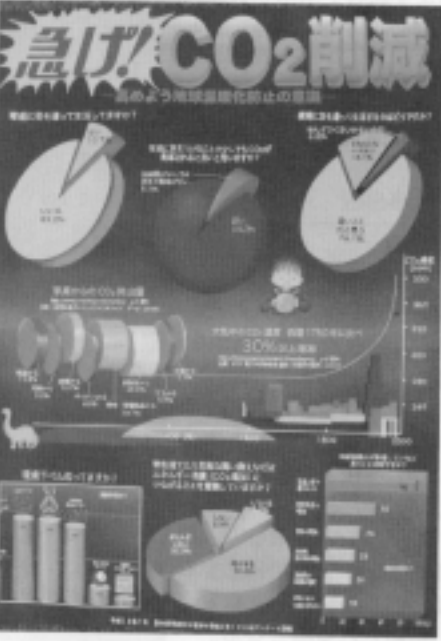
本施設では、教師と子供とで営む野外活動を目指しているため、カウンセラーは配置していない。従って、毎年、野外活動委員会が中心となって野外活動の実技講習会を行っている。

本年度から初任者研修を兼ねて実施され、レクリエーション指導を始め、炊飯活動、天体観測、カヌー、キャンプファイヤー、落ち葉スキー、オリエンテーリングなどの実技を学習した。中でも、コンバスを使った「はたる狩りオリエンテーリング」や小川に放流された「鮎つかみ」は好評であった。本講習会は三十二回を数え、本年度の七十一名を加え、一五五五名が受講済である。今後も、野外活動における教師の指導力向上に努めたい。

●表彰

- ◆全国中学校体育大会出場者
弓道(団体男子) 新田中学校 5位
バレーボール(男子) 電海中学校 ベスト8
陸上 男子110M H 南中 天野涼太
男子800M 葵中 浜口修平
女子300M 矢作中 鈴木萌未
男子走り幅跳び 南中 尾崎裕一
男子走り高跳び 新香山中 小野 充
水泳 男子400MメドレーR 電海中(加藤・湯川・高野・鈴木・矢田・稲垣)
矢作北中(大久保・石井一・石川 渡部・荒井・小坂)
男子400M R 岩津中(若下・蜂須賀・川口 稲波・中野・山本)
水泳 男子50M自由形 矢作北中 大久保竜登
相撲 個人 電海中 太田航大
南中 鈴木敦祐
弓道 個人 新田中 小野恭平
◆第一回全日本津軽三味線競技会 名古屋大会(中・高校生部) 優勝 甲山中一年 加藤佑典
- ◆JOCジュニアオリンピックカップ 平成十九年度全国中学生カヌー大会 カナディアン ペア 準優勝 新香山中(宇野・中根) カヤック ペア 第三位 新香山中(加藤・落合)
◆JOCジュニアオリンピックカップ第二 十回全日本小学生相撲優勝大会 東海ブロック 四年以下の部 第三位 根石小四年 加古卓也
◆中学校通信陸上競技大会愛知県大会 蹴球投げ 女子 第三位 電海中 不破千晴 200M 女子 第三位 電海中 山本知奈
◆県中学校カヌー大会 男子の部 総合優勝 新香山中 女子の部 総合優勝 新香山中 総合優勝 新香山中
◆第六十二回東海吹奏楽コンクール 中学校A編成の部 銀賞 電海中 ◆愛知県吹奏楽コンクール 中学校A編成の部 金賞 岩津中 中学校B編成の部 銀賞 新香山中 ◆中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会 中学校小編成の部 優秀賞 新香山中 ◆第四十七回愛知県合唱コンクール ◆NHK学校音楽コンクール 銀賞 電海中 合唱の部 銀賞 電海中 根石小
- ◆愛知県教育文化奨励賞 教育委員会賞 岩津中吹奏楽部

- ◆愛知県小学校バンドフェスティバル 金賞・愛知県教育委員会賞 電美丘小
◆ピティナ・ピアノコンペティション 中部日本II 地区本選 ソロ部門 優秀賞A一級 根石小二年 足立蓮都
◆愛知県野生生物保護実践発表大会 愛知県知事賞 宮崎小 愛知県知事賞 生平小
◆第三十二回岡崎市中学校児童生徒統計グラフコンクール 市長賞 遠尺小 五年 桐戸佑香 電海中 三年 鈴木美菜子 電海中 一年 稲葉えいり 市議会議員賞 六ツ美部小六年 田村頼奈
北中三年 酒井崇行・石川純平 酒井健太
教育委員会賞 電美丘小四年 大久保杏 城北中 一年 桐戸綾香 電美丘小五年 石原恵子
算数・数学部会賞 電美丘小四年 赤嶺沙耶 電美丘小五年 長崎遥奈 三島小 六年 松井優佳 岩津中 一年 水野綾音 電海中 二年 稲垣香奈 城北中 三年 影山七香 井田小六年 岩尾潤・高木健吾 電美丘小学校 電海中学校 学校賞



- ◆第二十一回岡崎市中学生の主眼コンクール 優秀賞 南中 梅下柚子 常磐中 三年 中根貴和 北中 三年 長坂愛華 六ツ美北中三年 櫻谷真由美
◆第四十九回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル入賞者 一般の部 美川中 三年 榊原安梨 葵中 三年 小川奈都子 矢作北中二年 山本晃弘 六ツ美北中三年 森 円花 電南中 二年 八木千文 北中 三年 丸尾聖希加 額田中 二年 倉田麻衣 附属中 三年 西園 胸 母国子女の部 南中 二年 金見美咲 電海中 三年 長谷 優 福岡中 三年 早川由里子

●新しいALT
七月で辞任したジェームズ・マーシャル先生の代わりに、九月より新しくウィカ・マナヴァヘトウ (Vika Maopa Manavahetau) 先生が着任した。継続の八名の先生と共に岡崎市の英語教育の指導に当たる。

〈岡崎のALT〉
James Roger Huff (ロジャー)
James King (ジェームス)
Sumire Blackburn (スミレ)
Adam Rolfsumeyer (アダム)
Robert Andrew Pensak (ロバート)
Nothando Joy Shange (ノサンド)
Robert Wade Bateman (ロブ)
Taro Alexander Dorsey (タロー)
Vika Maopa Manavahetau (マナ)

伊勢・鳥羽への修学旅行

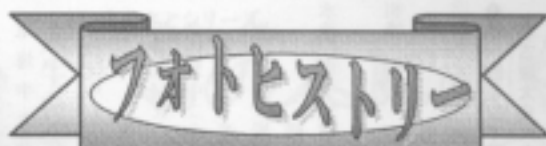
(昭和27年)

写真提供：羽根小学校

当時の修学旅行は、各学校で計画を立て実施していた。写真は昭和二十七年の修学旅行の様子である。この年は列車を乗り継ぎ、伊勢・鳥羽を回った。

このころは、まだ衣料品が手に入りやすく、普段着を洗濯したり、兄姉や卒業生から学生服やセーラー服をもらい受けたりして、何とか旅行用の服装を整えたということがある。

食糧事情も悪い時代で、米を持参しての旅行であった。持参できない児童の米は同級生が調達し、ほとんど全員が参加できたという。



岡崎の教育



「おはようございます」と、職場体験先でも子供たちの明るい声が響く。

「いいあいさつができるね」と、ほめられて微笑む顔にこちらもうれしくなる。外に出た時こそ、教育の真価が問われる。これからも当たり前のことが気持ちよくできる子供を育てていきたい。

あの坂を上るだけで息が切れる。自然の家の駐車場から運動場へ、体育館から太陽の広場へ続く坂道。たくさんの荷物と思いの出を背負って、何万人という子供たちが行き来したあの坂。

開所三十周年を迎える少年自然の家。これからもよき思い出を与え続けてほしい。

ア
オ
ス
シ

食育基本法が成立してから、改めて食の大切さが叫ばれている。子供たちが楽しみにしている給食には、味覚あふれる地元食材が使われたり、旬の行事食が並んだりする。食習慣形成時期の真ただ中にいる子供たちと、会話を楽しみ、感謝しながらいただきたい。

菅生川に、アキアカネの群れが飛び交う。夕暮れとアキアカネが川辺でゆっくりと混じりあう。「秋は夕暮れ」とはよく言ったものだ。

日暮れが足早になっていくこのころ。夏休みに読み終えなかった本を、もう一度面白いチャンスかもしれない。



- *子供たちに慕われ信頼される先生の条件
全国連合退職校長会
- 明治図書 ￥2,360
- *悩める教師へのアドバイス 有村久晴
教育開発研究所 ￥2,300
- *教室の悪魔 山脇由貴子
ポプラ社 ￥880
- *現代の偉人・達人から学ぶ人間力 奥野真人
学事出版 ￥1,600
- *教育力 齋藤 孝
岩波新書 ￥700
- 教育改革が進む中、わたしたちに求められている「教育力」とは何かを解明してくれる。教師の「教育力」については「専門的力量」と「人間的魅力」が大切だと著者は言う。
- 学者は、前者だけでも事足りるが、教師には、むしろ後者の方が重要である。人間的な魅力に欠けた教師は、いくら教え方が上手でも、子供はついて来ない。むしろ、子供や保護者とのトラブルが発生する頻度が高い。学校は、両方の魅力を兼ね備えた教員が多いほど、信頼される場となる。

